住めば都、

第10回

肥沃な土壌を世界遺産に！

**農業経営者の特権、それは美味しい食材に確実にありつけることではないか。
だが、普段は案外見逃されがちなこのことに気付けば、
もっと農業が楽しくなるかもしれない――。
農業界きっての美食家!?　鹿嶋パラダイス・唐澤秀が語る、
農業と食の可能性とは。**

快適な高速道路を眺めながら、思ったことひとつ

みなさん、こんにちは。

僕は久しぶりにゴールデンウイークは地元浜松に帰省した。膨大にたまった農作業と、とてもセンシティブな状況の稲苗を新人の清水くんに放り投げてのゴリ押し帰省となったわけだが、これも初子を抱える父親としての務めなのだ。浜松まつりは初子のお祝いのお祭りで、激しい気性の遠州人であることを認識させるとて壮大で活気みなぎるお祭りだ。またその初子祝いもまた盛大なもので、詳しい内容は割愛するが、本番の5月3～5日以外に4月にも2度、そのお祝いの前段の儀式で鹿嶋～浜松を往復しているのだ。1か月で3回。ふ～。

でも実はちょっと楽しみなこともある。小泉（純一郎元首相）さんの時にバラマキと言われ、工事が中断した第二東名。これがいつの間にやら開通しているのであるが、この新品の高速道路ってのが最高なのだ。うちのキャラバン、数センチの段差であってもその振動を、着実にかつかなり増幅した形で伝えてくれるという超スグレモノで長距離運転はすこぶる疲れる。しかし、この新品道路は平らな上にカーブが少なく、跳ね板キャラバンがクラウンに乗っているのではないかと思える程の代物。いやあ、いくらかかっているか知らないけど、常日頃批判されている公共工事の恩恵に浸るのもなかなか気持ちいいもんである。やっとこさ僕も農民根性が板についてきたなと悦に浸っているとその気持ちいいまま浜松に到着したのだった。

天竜川沿いを実家に向かって走ると、昔も多かったがさらに工場も家も増えたなあと、このままだと日本は工場と家とお墓に埋没してしまうんじゃないかと思うほどだった。耕作放棄地も問題だけど、このように農地が消えていくのも問題なんじゃないのだろうか。しかも天竜川沿いは粘土質の多く入った沖積土壌で、

耕せば楽園

僕はいつも天竜川沿いを通る度にヨダレを流して見ているのだが、利根川氾濫原であった埼玉深谷あたりの、強烈な肥沃土壌の凄さを知る者としては、本当にもったいないと心底思ったりする。

農地を転用していくにあたって、どのような土壌かということを考慮に入れてやってもらえると嬉しいなあと思う。もう家とか工場が建ってしまえば農地に戻ることはないわけで、価値ある資産を、しかも取り返しのきかない、作ろうと思っても作ることが不可能な歴史ある資産をこのように軽々しく扱うのはどうしても腑に落ちない。

わかる人にはわかるものを価値として認めること

そう、富士山が世界遺産に登録されるとの話で静岡は最高に盛り上がっているが、富士山が世界遺産であり、肥沃な土壌が世界遺産でない理由はどこにあろうか。

「あんた頭おかしいんじゃないの?」とまた嫁に言われそうだが、屁理屈を言わせてほしい。別に富士山が世界遺産に相応しくないと言っているわけではなくて、自然の価値というものは誰でもすぐ見てわかるものだったらいいだろう。しかし、わからないものだったらどうするかを考えないといけないのではないかと思うのだ。目立たないイコール価値がないではなく、見る人が見れば価値がある、ということも視野に入れていくことがこれからの時代において大切なのではないかと思う。

農業者は農地ひとつひとつ能力がはっきり違うことをよく知っている。良い土地がまだ耕作放棄されるのであればまだいい。いくらでも取り戻せる。でも、そこに何か建ってしまったら取り戻すことはできない。そういった能力を持つ田畑を杓子定規的に「地目＝田畑」と捉える貧相な思考をやめ、自然の創った価値を多面的に見られるアタマ、体制へと全体的に変えていく必要がある。

愚かな僕たちが今、認識しなきゃならんことは「富士山」をただの膨大な砂の山と捉え、ゴルフ場のバンカー用に売却するためにヨダレ垂らしながらショベルカーでエッチラホッチラ掘り崩しているのと同じことなんだと思っている。



唐澤 秀

からさわ・しゅう●1976年静岡県浜松市生まれ。明治大学農学部卒業後、1年間の就職浪人を経て2000年㈲農業生産法人茨城白菜栽培組合入社。ハクサイの生産から出荷までのマネジメント業務全般に携わる。08年同社を退社し、独立。屋号を「鹿嶋パラダイス」とする。全品目において無農薬、無肥料の自然栽培を行なっている。水田1.2ha、ハウス10a、露地5ha。鹿島神宮参道にある直営飲食店「樂田家」も経営。
http://kashima-paradise.com/